

凡愚姐御考

長谷川時雨

青空文庫

義理人情の美風といふものも歌舞伎芝居の二番目ものなどで見る親分子分の關係などでは、歪んだ——撓ためた窮屈なもので、無條件では好いものといひかねる。立てなくつてもいい義理に、無理から無理を生ませてゐる。人情にしてもまことに低級卑俗だ。大局とか、大義とか、さういふものには眞つくらで、ただ、ただ親分のためとか、顔が立たぬとかでもちきつてゐる。しかも、その親分、いかさまでない實力と、金のはいるのは昔からぎやうてん曉ぎやうてん天ぎやうてんの星のやうで、花川はなかははど戸はなかははどの長兵衛をはじめさうした人たちは、人間としても一人物であり條理もわかりさうだが、そのほか、野晒のぎらしごすけ悟助のぎらしごすけのやうに、大概なのは氣がよければ金に缺けてゐる。男伊達が起つてきてからの社會では金がなければ、中々道理もひつこむ世の中なのだから、勢ひ、講談などできいても悪い親分が多い。斬きツつ、張はツつも、正義や弱いものを助けるためにはすくなくて、繩張りの勢力争ひで、弱者がほろびてゆく。「文藝春秋」できかれた「姐御あねごぶり」といふものは、勢ひさうした見方からいつて、およそ、わたしのきらひなものだ。姐御とは、さうした輩ともからの細君を敬稱したものかと思ふ。親分の顔のよしあしも、一つは、細君の子分操縦法——つまり臺所まかなひ、小遣ひ錢、仕着せの心付けなどの付け届けの氣の利きかたで、だいぶ違ふのだらうと思ふ。で、以前役

者の女房にそれ者が必要だつたごとく、姐御であいもなかなか、粹もあまいも噛みわけた苦勞人でなければおさまらなかつただらうし、男まさりの氣強い女ものでなければ、無考へな、血の氣の多い、若い衆を操御し、ある折は親分とも夫婦喧嘩もしなければならなかつたであらうから、勢ひ、むかうつ氣の強い女でなければならぬ。鐵火てつくわにならざるを得ない。

ところで、鐵火とは、巻き舌で、齒ぎれのよい肌合を差していつたものだが、氣のあらい勇み肌いさはだのなかでも、鐵火といはれるのは、どうしたことかすし下品さをふくんでゐる。鐵が火のやうに焼けて、カンカンなのか、火のやうに強い性格といふのか、それとも火のやうに焼けた鐵の棒を突きつけられても、おそれない人といふのか、そんなことは、さうした方面の研究をしてゐる人にでもきかなければ由來はわからないが、坎かん、もしくは驛かんなるものならば、女の時にもつてくれば、疝かんの高い馬のやうな跳つかへりをさしたものともおもへる。「言泉ことばのいづみ」を見ると、戰國時代に罪の虚實を糺さんために、鐵を赤熱せしめて握らせるものとある。そしてまた、心ざま兇惡無慙なること、野鄙殺伐やひさつばつともある。鐵火肌はさうした性質ともある。

そこで、獨立した女親分——そんなふうなものをも姐御といひ、尊稱して大姐御となへるやうだが、わたしはこの位きらひなものはない。なぜなら、いやに偉らがつて、そこ

に、あざけきつたものが多分にあるからだ。

ともあれ、まづ、江戸末期の頽廢した、朝酒あさざけでもひつかぶつてゐられるやうな時期の、大姐御といふもののかたちを示してみると、黒じゆすの襟のかかつた廣袖ひろそでの綿入れ半纏、頭髮はいぼぢり巻きか、おたらひ、長羅宇の煙管をつけて長火鉢の前に立膝。白の濱ちりめんの湯まきに、藍辨慶のお召、黒の唐じゆすと茶博多のはらあはせのひっかけ帶——事實これが似合ふ女は、さうザラにあるものではない。甚ださつぱりしてゐるやうであつて、おそろしく、人によつてなまめかしくなる。そこで素地きちを洗ひ出す必要があつたのであらうが、當今の芝居で見るやうな、場違ひの、エロつぽいものも澤山あつたものと思へる。およそ、厭味なのが多かつたことであらう。

しかも、早のみこみで、勘かんぐりで、小才がある。かういふ女がおつちよこちよいをけしかけたのだから、小喧嘩こいさかひは絶えない筈ではなからうか。ものの根本こんぽんをわきまへず、親分の顔——面つらがたたねえといふだけで、蝗いなごのやうに跳ねあがる。今日でも、支那の古い方面では、何事も面態、めんずといふさうだ。面態めんずさへたてば、どうでもいいといふのは自分だけの立場がごまかせればよいといふのであらうが、面つらが立たねえと、昔の芝居の二番目ものなどで見得をきるのも、多くはそれに似通つてゐる。誠にせまい道德——道德と

いつてをかしければ、狭い自己満足だ。わたしはかういふ世界を好かない。その裏にある潔癖だけを——せまい正義感だけを買ひはするが、およそ、わたしの時代観とはかけ離れたものだ。

姉御とは本當は姉御前あねごぜの尊稱で、御ごとは敬し親したしんだ呼び名ゆゑ、母御前はくごぜとおなじに、よばれて嬉しい名でなければならぬのを、きやん（侠）な呼名に轉化してしまつて、あばずれといふふうになつてしまつてゐる。ごくよい意味にとる時に女丈夫といつたものも含んでゐるし、サラリとした氣風をも籠めて、あねご肌はだといふやうだが、事實はすこし異つてゐる。サラリとした氣風といふなかには、生れだちの氣風もあるし、修業によつて超然たる悟りもあるし、ガラツパチの粗雑なものとは、てんから質においてちがつてゐることは、女丈夫をもその中に入れるやうだが、女丈夫は讀んで字のごとくますらをの魂がある女なのだ。

もとより仁侠の、親分にしても姐御にしても、白刃しらばの中をもおそれぬ氣魄きはくと正義觀せいぎくわんのあつた者を、當初はじめは立ててきたのであらうが、總稱して、姐御とは親分のおかみさんをさすことになり、それに似たつくりのあばずれ女などを多くさしていつたものとなつたのだ。

丈ますらを夫だましひ魂はは、男の所有のものばかりだと思つてもらつてはちつと困る。男にだつて持

れた卑稱で、あやつ、こやつ、やつ、やつこ、家の子、家ツ子だといふことだ。奴は奴婢で、女は奴婢であり、庶民より一階級下の賤民とされてゐた。江戸時代でさへ重罪人の妻子や、妹など、または關所破りの女たちなどは、本籍を剥がれ、無籍者、女をんなやつことして吉原へ無期限でおとされたといふ、奴とはいまはしい名なのだ。大昔の貴族は奴を多くもつてゐた。徳川期に江戸の武家の奉公人で、主人の供をしてあるく奴が、主人の伊達好みから、派手なふうをするやうになり、奴の腕つぶしの強いのを自慢にし、奴も仁侠の氣を帯び、鎌髭かまひげ、撥鬢はらびんの風俗で供先へ立つたので、その颯爽たる氣風が、當時創業期の江戸に集つた負けぬ氣の諸國人の好みに合つて、斷然その風體ふうていが流行し、その仁侠——男を磨くといつた下に、漸く太平になつて、上は大名に、下は金持町人にはさまれて、世の中が鬱陶うつとちうしくなつてきた、血の氣のしづまりきらない三河系統の旗本の一脈が、旗本奴と名乗れば、その横暴我儘を通させまいとして、市民側からは町奴が出来た。それが顔役の先祖で、顔役とは、喧嘩口論のをり、取鎮めたり、事件を審いたりするうち、だんだん顔馴染になつて人氣にんき肩入れかたたいが出来、その人がゆけば、すぐに落着するやうになつたので、顔をもつてゆくとか、顔をかしてくれとかいふのがもとなのであらう。こんなことは、私よりよく知つてゐさうな讀者の多い本誌へ書くといふのは誠に氣がさすが、順序なのでよ

ぎない。

そこで、盛り場の女などが 奴風やつこふう をするやうになり、奴氣質かたぎを賣りものにしたが、それは侠きやんで、パリ／＼とした、いい氣つぶ、ものに拘はらない、金に轉ばないといふたてまへで江戸藝者など、それをまづ第一の素質とした。これは夕立をこのみ、櫻花の散りぎはを賞美する、いさぎよさを好む、日本人的代表な、さつぱりした氣質なのだが、それつきりでは困りもので、江戸ツ子は皐月さつきの鯉の吹き流しなどと、得意になつてゐた一部もあるが、サラリとしたそのうらに、噛みしめた細かいキメはもつてゐる。それは、都會人特有のセンチメンタルだとばかりもいへない。しかし、それはよい方のことばかりだったので、奴氣質とはなにかと、字典を開くと、放埒、無頼の氣質、折助根性をりすけこんじょうとある。奴詞やつことばは一種粗雑な言葉づかひ、六方ろっぽうことば、關東くわんとく東とうべい、とある。

徳川九代家重の寛延元年七月廿七日の禁令には（百八十八年前）

おつて供　り徒士の者、中間ちゆうげん、奴共風俗やつどもふうぞく不よろしからず宜よろしがさつに有之、供先やつさきにても口論仕不届つひに候自今風俗相改かうとふと致し、相愼つしめ

とある。同年八月十日にもまた、

惣すべて供　り徒士かちの者共風俗がさつに候、中間共も異風とりこしらへに取とり拵しらへ候者共多相見え別わけて

がさつに有之候。

奴共別てかさ高にて候間供先にも口論等致又者悪言等申者之有候はば急度お仕置申付にて可有之候。

とあり、同日の觸れには

近年町人異風に取り拵候風俗の者多く就中髮かみなど 杯はを異形に結成ゆひなし共外異體ともがらの族有之候間、召仕等迄急度申付風俗かうとふに致萬事がさつに無之様可致候。

とある。

奴と名乗つた男女の侠客に、元げんろく祿の奴の小萬と、後のちに奴の治兵衛といふのがある。小萬は大阪長堀に生れ、木津家といふ豪家の娘だつたといふ。ゆきといふのが本名かどうか、後に三好氏が祖先だからとて、三好ゆきとなり、剃髪して正慶尼となつたが、美人で俠氣があり、才藻ゆたかに學問もあつて、しかも金持ちの娘で腕が立つといふのだから、おあつらへむきでもあり、また驕慢でもあつたらう。つきまとふ男がうるさいといつて、顔に墨をなすつて痣をこしらへ、しかも妙齡十六の時、天王寺詣りの歸りに蛇坂へびざかで四人組の悪者が、ただの娘だと思ひ、引つ浚はうとしたのを、覺えの早業でとりひぢき恐れ入らせたので、奴の小萬の名は風のやうに廣まつた。

二十の春、京へ上り、禁中に仕へ、ながつぼね長局が祐筆をして五年をおくつたが、また大阪へ歸つた。奴風俗伊達な刀の一本ぎし、ある時には豊臣秀頼の追善にと、にはか雨にぬれる男女に傘百本を寄附したりしたといふが、りうりけふやなぎさはきゑん柳里恭柳澤淇園かよが通つたとも、だうじやうけ堂上家の浪人を男妾にしてゐたが、その男が義に違ふことをしたので放逐し、その後は男を近づけなかつたともいはれてゐる。この小萬などが、まあ、つぶだつた女親分とか、姐御などの先人であらう。

姐御——あせう阿嫂のほんもとは、なんとなく支那にありさうだが、支那のものを讀んでゐないから分らない。水滸傳など、ああした作りものとしても、あの虎を張り殺したぶしやう武松にしびれ酒をのませ、ぼやしやそんじじやう母夜叉孫二娘——みち孟洲の路の、大樹林の十字波の酒店で、頭には鐵環をはめ、鬢には野花をさした美しい女が、人肉の肉包を賣つてゐたり、これも登洲城の東門の外で、酒を商つてゐた、ぼだいちうこたいさう母大虫顧大嫂といふ勇力武藝男子にすぐれ、四五十個の男も敵とするあたはずといふ女猛者は、おなじ、りやうざんぼく梁山伯の女性のうちでも、こやそう扈家莊の女將で、五百の手勢を率ゐ、白馬にまたがつて兩刃をつかつた、お姫様出の、いちぢち美女一丈青やうせいこざんじやう扈三嬢こざんじやうなどよりは、姐御といふことばのはまつた器であると思ふ。ああした粉ふん本は、あの頃ばかりではなく、支那には澤山あつたのかも知れない。シベリヤお菊とか、

おらんだお蝶とか、海外漂泊の女の中にも、さうした方面の人たちは、我國の實在の女性にも多かつたであらうが――

それにしても、姐御とはどうしても、浮世ずれのしたところと、世帯ずれもあつて、いはゆる、下腹したはらに毛のないといった、したたかもの人柄をも加味し、轉じては、當今でいへば野心家、かなり金錢慾も名譽慾も霸氣もあつて、より多く政治的でなければあてはまらない。

×

だが、わたしがさういふと、あなたはその血をひいてゐるところがある。江戸ツ子の末だからといはれる。それは意味ありげで、意味のない言葉だ。江戸ツ子がガサツだといふのならうけとれるが、江戸には士、工、商の三階級があつて江戸といふ都會をつくつてゐた。その尤もガサツな職人しよくにんふう風なものいひが、どうも江戸ツ子といふ概念をあたへてゐるので、すべての好みが淺薄せんぱくに感じられると見える。だが江戸ツ子の負まげじ魂ましひは、全國的のものを代表してゐる。といふのは、もとより、全國的代表移民の都會であるから、そのころの負けじ魂が、利かぬ氣のきつぷになつて残つてゐるので、すべてが匏かんツ屑なくづのやうなものばかりではない。もすこしいつて見れば、それどころかあんまり頭が早くつて、冴え

て冷たくさへなつてゐたのだ。で、無論、眞の江戸氣質などは、滅ほろびたのだ。殘骸はなにも厭なもので、わたくしなどもその厭な殘骸から脱却して、新日本の一民として生きていのだ。

當今といへども、姐御がりたいものがないとはいへない。黨を組んでためにしようとするもの、自分の實力以上の力としようとするもの、或は皆無でないかもしれない。だが賢明なる周圍が、そんな時代錯誤をさせはしない。集團の強さはみんなよく知つてゐるが集團は、個々の集りで、親分子分の關係でないから、自由であり、快活であり、卑屈でない。

およそまあ、姐御なるものを想像してごらんなさい。心の肌のキメの粗いものだ。神經は馬の尻つぼの毛を繕よりあはせたほど太く、強靱でなければならぬ。まして顔の皮は、昔でさへ千枚ばりといったが、防弾ハガネほどでなければなれない。

わたしなども、大姐御と書かれることもあるが、愛あいきやう敬けいなのはわかつてゐる。愛あいしよ稱しょうしてもらつてゐるのであつて、今の世の、ほんとの大姐御などといふものになれる資格があれば、それは、昔時の叡山の惡僧よりもたいした代ものだ。わたしはただ、害のない存在として、若い女友だちから愛されてゐる幸福者にすぎない。わたしには姐御などに

なれる荒つぽい勇氣がない。そんな風におもはれるのさへ恥かしい。

（「文藝春秋」昭和十一年二月號）

青空文庫情報

底本：「桃」中央公論社

1939（昭和14）年2月10日発行

初出：「文藝春秋 昭和十一年二月號」

1936（昭和11）年2月

入力：門田裕志

校正：仙酔ゑびす

2008年12月7日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

凡愚姐御考

長谷川時雨

2020年 7月18日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>